

由岐漁業協同組合における資源管理協定

協定締結日 令和5年12月27日

協定認定日 令和5年12月27日

(目的)

第1条 本協定は、由岐漁業協同組合に所属する漁業者によって漁獲される水産資源の管理に関して、当該水産資源の資源管理の方向性の達成を目的として、本協定に参加している者（以下「参加者」という。）により、当該水産資源に関して自主的な資源管理の目標を定め、当該資源管理の目標の達成のために具体的な取組を行うことで、当該水産資源の保存及び管理を図るものである。

(本協定の対象となる水域、水産資源の種類及び漁業の種類)

第2条 本協定の対象となる水域、水産資源の種類、漁業の種類は、それぞれ次のとおりとする。

	水域	水産資源の種類	漁業の種類
(1)	太平洋海域 (徳島県沖合)	ハモ、アマダイ類、サバフグ類	延縄漁業
(2)	太平洋海域 (由岐漁業協同組合地先)	イセエビ、カワハギ、ヒラメ、メバル、カサゴ	刺網漁業
(3)	太平洋海域 (由岐漁業協同組合地先)	アワビ類、トコブシ、サザエ、ウニ類、マナマコ	採貝漁業
(4)	太平洋海域 (徳島県沖合)	タチウオ、マアジ、サバ類、クロマグロ	釣り漁業

(資源管理の目標)

第3条 本協定における資源管理の目標は、次のとおりとする。

水産資源の種類	目標等
クロマグロ	資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号。以下同じ。）別紙第2-1、2-2に定める目標
マアジ	資源管理基本方針別紙第2-5に定める目標
サバ類	資源管理基本方針別紙第2-15に定める目標
ヒラメ	徳島県資源管理方針別紙第3-1に定める資源管理の方向性
ハモ	徳島県資源管理方針別紙第3-7に定める資源管理の方向性

タチウオ	徳島県資源管理方針別紙第3-8に定める資源管理の方向性
アマダイ類	徳島県資源管理方針別紙第3-10に定める資源管理の方向性
カワハギ	徳島県資源管理方針別紙第3-12に定める資源管理の方向性
メバル	徳島県資源管理方針別紙第3-14に定める資源管理の方向性
カサゴ	徳島県資源管理方針別紙第3-15に定める資源管理の方向性
サバフグ類	徳島県資源管理方針別紙第3-18に定める資源管理の方向性
イセエビ	徳島県資源管理方針別紙第3-24に定める資源管理の方向性
アワビ類	徳島県資源管理方針別紙第3-27に定める資源管理の方向性
トコブシ	徳島県資源管理方針別紙第3-28に定める資源管理の方向性
サザエ	徳島県資源管理方針別紙第3-29に定める資源管理の方向性
マナマコ	徳島県資源管理方針別紙第3-33に定める資源管理の方向性
ウニ類	徳島県資源管理方針別紙第3-35に定める資源管理の方向性

(資源管理の目標の達成のための具体的な取組)

第4条 前条の資源管理の目標の達成のための具体的な取組は、それぞれ次表に掲げる
ところにより行うものとする。

	取組内容
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/1 から 10/31 の期間中、170 日以上の休漁 ・ 月 4 日以上の休漁
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3/1 から 2/28 の期間中、160 日以上の休漁 ・ 週 1 日以上の休漁 ・ 由岐漁業協同組合で定めたイセエビ資源管理の取組 網数の制限、操業禁止区域の設定 等
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/1 から 10/31 の期間中、200 日以上の休漁 ・ 週 2 日以上の休漁 ・ 由岐漁業協同組合磯士会で定めたアワビ類・トコブシ資源管理 の取組 操業禁止期間、操業禁止区域の設定 等

(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/1 から 10/31 の期間中、150 日以上の休漁 ・ 週 1 日以上の休漁
-----	---

2 前項の取組に加え、クロマグロについては、資源管理基本方針及び徳島県資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）に係る資源管理の内容を遵守するとともに、漁業法第 32 条第 1 項の規定に基づき知事が行う助言、指導又は勧告に関する運用指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする。（強度な資源管理）

（取組の履行確認に関する事項）

第 5 条 前条の具体的な取組の着実な実施を担保するため、全ての参加者に対して、少なくとも年 1 回、前条の具体的な取組の履行確認を行うこととする。

2 全ての参加者は、前項の履行確認に協力するものとする。

3 第 1 項の履行確認は、徳島県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

4 第 1 項の履行確認においては、前条の取組については、それぞれ次表に掲げた証拠書類等を基に確認することとする。

	取組内容
(1)～(4)	漁協仕切伝票または市場荷受伝票（関係漁業者の出荷日がわかるもの）、操業日誌（各関係漁業者の出漁日、休漁日がわかるもの）

（漁獲量等の漁獲関連情報の報告）

第 6 条 全ての参加者は、漁業法（昭和 24 年漁業法第 267 号。以下「法」という。）法第 30 条第 1 項、第 58 条において読み替えて準用する第 52 条第 1 項及び第 90 条第 1 項の規定に基づき、漁獲量及び漁獲努力量、資源管理の状況、漁業生産の実績等を都道府県知事に報告するものとする。また、延縄漁業、釣り漁業について、対象となる水産資源の漁獲量等を都道府県知事に報告するものとする。

2 全ての参加者は、協定の実施のために必要とされる履行確認や効果の検証等の情報を積極的に都道府県及び資源管理協議会に報告するものとする。

（取組の効果の検証に関する事項）

第 7 条 第 4 条の具体的な取組の対象魚種の保存及び管理に対する有効性を確認するため、本協定の有効期間の 2 分の 1 を経過した時及び当該有効期間の終了時に、本協定の取組の効果の検証を行うこととする。

2 前項の規定にかかわらず、対象魚種の資源評価が行われた結果、資源管理基本方針及び徳島県資源管理方針において重大な変更があった場合には、当該変更があった日から 1 年以内に検証を行うこととする。

3 前 2 項の検証は、直近の資源評価の結果及び前条で報告された情報その他参考となる科学的知見に基づき、徳島県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

(協定に違反した場合の措置)

第8条 参加者による資源管理の目標の達成のための具体的な取組、当該具体的な取組の履行確認への協力その他の本協定及び本協定の規定に基づく要領、規約等の内容に対する違反の疑義が認められた場合には、当該違反の疑義の内容について徳島県に設置された資源管理協議会に報告し、調査及び協議することとする。

- 2 前項の調査及び協議の結果、違反したことが明らかになり、かつ、その違反の程度が重大なものであった場合には、当該参加者の本協定の遵守が要件となる国及び徳島県からの補助を受けることができないこととする。この場合において、当該補助を受けることができない期間は、違反をした年度とする。

(協定への参加及び協定からの脱退)

第9条 全参加者の代理権を有する者(以下「協定代表者」という。)は、本協定に参加しようとする者に対して、参加届出書により参加する旨の届出を行わせるものとする。この場合において、本協定への参加は、協定代表者が当該参加届出書を受理した時点で行われるものとする。

- 2 参加者の住所又は氏名若しくは名称に変更が生じたときは、当該参加者は、協定代表者に対して、変更届出書により当該変更の内容の届出を行うものとする。
- 3 参加者が本協定を脱退しようとする場合には、当該参加者は、協定代表者に対して、脱退届出書により当該協定からの脱退を申し出るものとする。この場合において、本協定からの脱退は、協定代表者が当該脱退届出書を受理した時点で行われるものとする。

(協定の有効期間)

第10条 本協定の有効期間は、協定施行の日から5年間(令和6年1月1日から令和10年12月31日まで)とする。

(あつせんすべきことを求める場合の手続き)

第11条 法第126条第1項の規定に基づき徳島県知事にあつせんすべきことを求める決議は、参加者の3分の2以上の多数をもって行う。

(その他)

第12条 本協定に定めのない事項については、参加者間で協議し、決定するものとする。

附 則

本協定は、令和6年1月1日から施行する。